



2学期始業式(平成23年9月1日)



創立百周年記念式(昭和49年11月21日)



岸信介総理講演会(昭和32年10月18日)



卒業式(平成22年3月2日)



岡山市民会館での卒業式を終えて母校に歩く卒業生たち(平成24年3月2日)



卒業式(平成19年3月2日)



オープンスクール参加の列(平成24年7月25日)



朝日祭でのダンス部公演(平成23年9月9日)



入学式(平成22年4月8日)



2階席での卒業式演奏(平成20年3月2日)

同窓会HPにも大講堂特集をアップしています。

《大講堂》 鉄骨木造平屋一部2階、床面積9002平方<sup>メートル</sup>、軒高9<sup>メートル</sup>、梁間18<sup>メートル</sup>、桁行38<sup>メートル</sup>。建設費1266.5万円(当時の教諭初任給9000円から換算すると今の値段にして2億円超か)。国、県分を除く建設費69.5万円のうち同窓会が400万円、PTAは残金と設備費などを負担した。本来の名称は「講堂」だが、昭和30年建築の合併教室(通称「小講堂」、平成16年解体)に対して「大講堂」と呼ばれ、定着した。

大講堂の耐震強度不足がクローズアップされたきっかけは県教委が22年に策定した県立学校の耐震化率を29年度末までに100%にする計画(翌年、27年度末に前倒し)。大規模耐震化改修に向けて卒業生でもある平井信雄・前校長が先頭に立って奮闘され、22年度中の実施設計委託が決まっていた。しかし事前の構造診断でコンクリート基礎部が「極めて脆弱」との判定が出た。昨年1月、正門など3棟、1基の建造物が国登録有形文化財に登録されたが、大講堂も築後50年を超えており、同文化財の要件の一つを満たしてはいない。しかし、学校独自に依頼した専門業者の調査で、生徒の安全確保のためには外観の変貌を伴うほどの早急なる大規模改修が避けられないことが判明したため申請を見送った経緯がある。

県教委から実施設計中止の通告と大講堂取り壊し、体育館へのステージ設置の提案を受けた学校側は22年11月、「岡山朝日高等学校における大講堂の意義」と題した文書を県教委に提出。「長年にわたる知育と徳育の拠点であり、厳粛な式典や講演、発表の場としてかけがえのない財産」であることを重ねて強くアピールした。引き続き保存修復を強く要請する一方、改修が認められない場合の対策として1階に講堂、2階に体育館の機能を持った「新講堂」を提示している。